をてる（orすえる）（）　　　　　　　　 　　　　令和４年６月５日

◎白隠禅師［1685 - 1769］の言葉

１．**せよ**。　原文：不断坐禅。

２．**を**し、をにし、せよ。

原文：竪起脊梁骨 充気丹田 正身端坐。

◎如浄禅師［1163 – 1228、道元禅師の師匠］の言葉

３． **を**し、にして、にすることれ。

原文：昼夜竪起脊梁　勇猛切莫放倒

◎五祖法演禅師［ ? - 1104］の言葉

４．らく、することをす。すべからず。

をせよ。　　 原文：須要時時点検刻刻提撕。不可蒲団上死坐。竪起脊梁。

◎大森曹玄老師の言葉

５．どもは**にをてなければになりません**が、にるときにはそののがです。**けは、に**です。

◎岡田虎二郎［1872 - 1920］の言葉

６．をてること。なことをれてはいかぬ。

７．なることがあっても、をしてはならない。なるもこの。

８．のをねじればがドシドシるく、をてるにがわる。

　 をまっすぐにするがし。

９．**はにせて、らはしくるというがあるきりです**。

10．「がある」とは、にるとかのにあるとか、のある

ものが、のをしいて、するのをいう。

11．ひと、ひとにというをせよ。

12．は、「」をてることである。

13．のをうからしい。… をてればはずからまる。

14．のみをからす。… のをててのにする。

◎森信三［1896 - 1992］の言葉

15．つねに**をシャンとてること**。これ**のったになる**なり。

16．われわれが、にのったになるもなは、、

 **をてつづける**のにはないのである。

17．「の」にちり、そこからにす。

18．「」（伊藤三樹夫作）

　**をてることは　いのちをてること**

　をてることは　をてること

　をてるたびに　のがひきしまってくる

　このに　いのちがちわれてくる

　は　いのちのみそぎ　　 　は　いのちのだ

　には よみがえるのだ　　とともに よみがえるのだ

　きるとは よみがえることだ

　きるとは　この　をてること 　をてけることである

◎［1880年6/16 – 1965年6/16］の言葉

19．**まっぐにただっておるよりほかには、まったくのない**というのは

のことである。

20．**ただ するだけで、あとのことは はいらない**。

21．はあたかも、がの［名刀］をきいてえているとに

**な**である。どんなであろうと、ギリギリのなには、もれることのできないなものがある。

22．「**をにて**」というのは、**いののこのっただにする**ということである。しても、はなくなるものではない。この・のをもって、**のままにする**ことだ。

◎［1630 - 1714］の言葉

23．ののをほしいままにしてをうは、たとえば、みずから のどぶえを

たつがし。のよくをやぶる、をてするにじきをれらば、などかをばざるべき。… ［この理を］よくれらば、**などかのをなわざるべき**。

24．の**つねにをしくすえ**、… にをあつむべし。

にしてをいうにも、のにのぞみ、いそがはしきも、すべし。もしやむをずして、とをずとも、にやぶられず、ならずしてあやまりなし。はをつとめ、のをつかい、とうにも、このをとすべし。これをつとめ、をうにあるなり。そをなう、にはこのをらずんばあるべからず。

、のをい、のするも、をにおさむるなり。